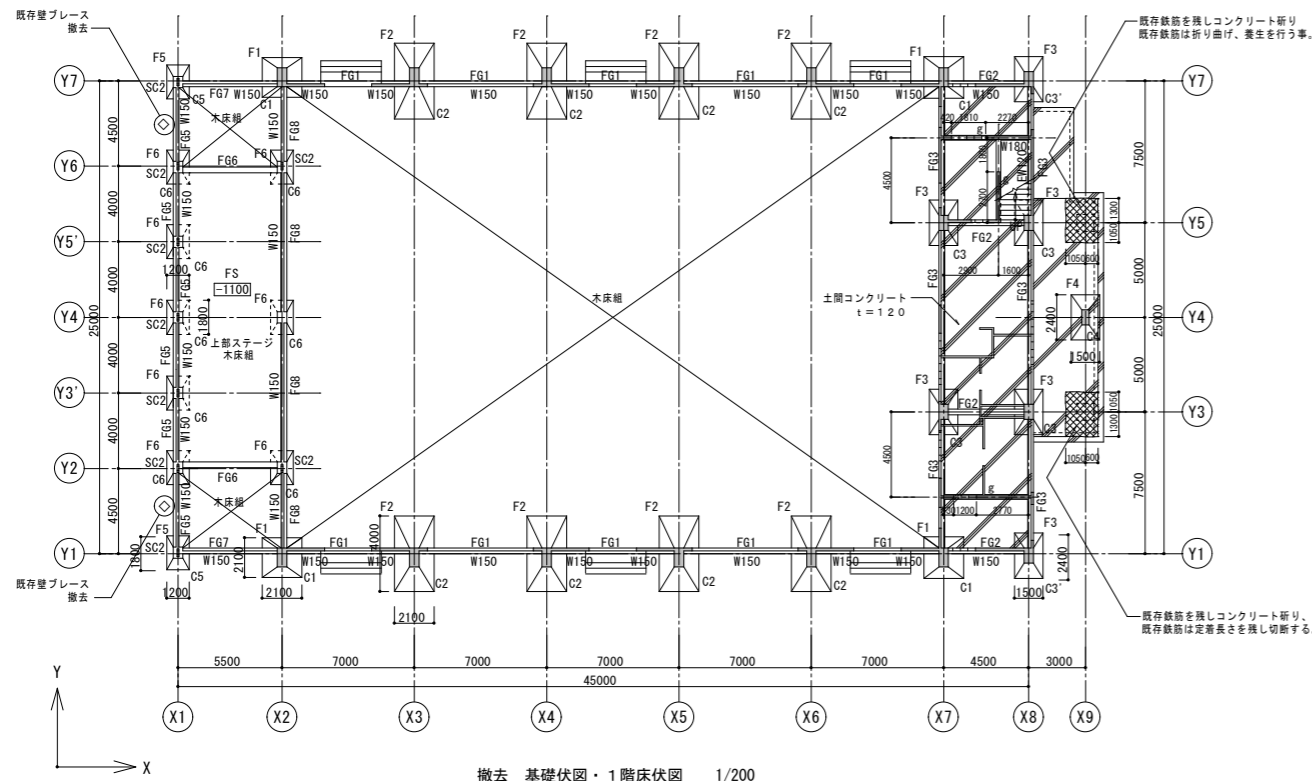


耐 震 補 強 特 記 仕 様 書

第一章 工事概要	第四章 撤去工事	第六章 あと施工アンカー工事														
<p>1. 工事件名 令和5年度 辰野西小学校体育館長寿命化改修工事</p> <p>2. 工事場所 上伊那郡辰野町大字伊那富2812番地</p> <p>3. 建物概要</p> <p>a) 規模 地上2階建て</p> <p>b) 主要構造 鉄骨造 + 鉄筋コンクリート造</p> <p>c) 経年 60年</p> <p>4. 施工計画</p> <p>本工事は、既存の構造体に対し部材の増設・補強を行うことによって、耐震性能の向上をはかるもので、既存躯体との接合が極めて重要である。</p> <p>またこの施工は限られた場所で行われるので、一般の建築工事とは施工法などが相当異なる面があるので、設計の趣旨が十分実現されるような工程及び施工計画を選定する必要があり、次の点に十分注意すること。</p> <p>a) 既存躯体寸法、補強部材製作寸法は実測による。</p> <p>b) 補強部材と既存躯体との一体化を図る。</p> <p>c) 新設鉄筋の定着を十分行う。</p> <p>d) 騒音、粉塵ならびに汚染などの支障を及ぼす範囲をできるだけ小さくする。</p> <p>e) 仕上げコンクリート等の撤去に際しては、最小限必要な範囲とし、残り部分を痛めないように十分注意すること。</p> <p>f) 既存配管、配線及び器具等を十分調査し、損傷を与えないように注意する。</p> <p>g) 建物使用者の安全の確保については、万全を期すこと。</p>	<p>1. 撤去工事の施工内容</p> <p>a) 補強工事に先立ち、内装材及びコンクリート部材表面のプaster、モルタルなどの仕上げ材を除去する。また、補強工事に支障がないように、工事範囲近傍の内装・建具・設備配管などを必要かつ十分なだけ撤去する。</p> <p>b) 新しくモルタルまたはコンクリートを打ち継ぐ部分のコンクリート表面は、適切に目荒らしまたは研りを行い補強部材との一体化を図る。既設コンクリートの研りおよび穿孔においては既設の鉄筋を痛めないようにする。</p> <p>c) コンクリート及び塗り仕上げまたはこれに準ずる仕上げ材を撤去する場合は、カッターで切込みを入れてから撤去する。また、部分的に撤去する場合は既存部分の仕上げに損傷を与えないように十分に注意する。なお、躯体を撤去する場合は、両面からカッターで切込みを入れてから撤去する。</p> <p>d) 壁の増設工事を行う場合などで、土間コンクリートがある場合には、撤去し、既存基礎梁にあと施工アンカーを打設し、増設壁を設けた後に、土間コンクリートを打設する。</p> <p>2. 既存部分の処理</p> <p>a) 目荒らしは、電動ピックなどを用いて平均深さ約5mm（最大で10～15mm）程度の凹凸を、打継ぎ面の3/4～全面にわたって付ける。なお、増打ち壁の場合、既存壁には全面にわたる打継ぎ面の10～15%程度を目安として目荒らしを行う。</p> <p>連続繊維補強工法以外の柱補強では、既存柱の外周面に目荒らしを行う。既存柱への目荒らしは、電動ピック等を用いる。目荒らしの程度は、柱面の15%～30%程度の面積へ均等に2～5mm程度の凹凸をつけるものとし、過度にコンクリート面を荒らさないように留意すること。</p> <p>b) 研りは他の部分にひび割れを生じさせないように、かつ鉄筋を痛めないように慎重に行う。研った後は、ブローア又は吸引などにより、研りくずや粉末などを十分除去する。モルタル又はコンクリートを打ち継ぐ前には打ち継ぎ面の水浸しを必ず行うこと。</p> <p>c) 既設コンクリートを穿孔するときは、鉄筋を痛めないようにする。穿孔途中で鉄筋にあたった場合は、別の場所を穿孔し、穿孔途中の孔は適切に補修すること。</p> <p>d) 既存コンクリートにひび割れやじゃんか、空隙、剥離及び剥落等の欠損部がある場合は補修を行う。</p> <p>3. 撤去工事の注意事項</p> <p>a) 撤去作業に際し、あらかじめ事前調査を行い、かつ建物の内外にわたって写真撮影を行うておくこと。</p> <p>b) 鉄筋及び型枠などの加工は、既存躯体寸法の実測を行い、これに基づいて行うようにする。なお、実測寸法が設計寸法と大きく異なる場合には監督員と協議する。</p> <p>c) 改修工事後再利用する建具類などは、撤去に際して損傷のないように充分注意し、安全な場所に保管しておく。</p> <p>d) コンクリートの撤去工事は、下記の工法等による。</p> <p>ただし、極力低騒音・低振動工法を採用する。</p> <p>① ブレーカー工法（ハンドブレーカー・ピックハンマー・電動ハンマー）</p> <p>② カッター工法</p> <p>e) 梁の補強を行う場合にスラブに対する穿孔箇所数が多い場合や、やむを得ず床開口を設けて資機材の運搬を行うための床開口が大きい場合には、スラブの剛性が低下し常時荷重に対する変形が大きくなるため、スラブ下に適切に支持材を設置する。</p> <p>f) 廃材の処理は、「建設副産物適正処理推進要領」（平成14年5月30日 改正 国土交通省）による。</p> <p>g) 本撤去工事にアスベストの処理工事が含まれる場合には、関係法令、都道府県の条例等を遵守のうえ「環境配慮改修工事（アスベストの処理工事）」（公共建築改修工事標準仕様書 平成31年版）により行うこと。</p>	<p>1. あと施工アンカー</p> <p>a) あと施工アンカーは、（社）日本建築あと施工アンカー協会（以下JCAAと略す）が認証する製品とする。</p> <p>b) 接着系アンカーに用いるアンカー筋の材質は、JIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）に規定するSD295A 及び SD345 規格品とし、その形状は埋込先端部を45°にカットし、増設部分の重ね長さを充分にとる。</p> <p>ただし枠付鉄骨ブレースに用いるアンカー筋の頭部は、ねじ加工シナットを取付け、アンカー筋頭部ネジ山をナット面より二山以上確保すること。</p> <p>c) 金属系アンカーに付属品として使用する定着筋の材質はJIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）に規定するSD295A 及び SD345 規格品とする。</p> <p>2. 施工（責任施工とする）</p> <p>a) 施工業者は原則としてJCAAの有資格者とする。技能者は第1種あと施工アンカー施工士程度とする。</p> <p>b) あと施工アンカーは、仕上げモルタル等を除去し柱・梁のコンクリート躯体部分に垂直に打設すること。1階については、基礎梁上端から所要のアンカー埋込長さを確保すること。</p> <p>c) アンカー打設前に孔内を清掃し、コンクリート穿孔深さを確認すること。</p> <p>d) 接着系アンカーを上向きで施工する場合には、脱落防止を施し養生すること。</p> <p>e) 接着系アンカーは打設後、24時間以内は振動、衝撃などを加えないようにすること。</p> <p>f) ダメ孔は樹脂モルタルなどにより、穴埋め補修すること。</p> <p>3. 試験・検査（あと施工アンカーの工事検査は施工監理会社、元請施工会社の立会いのもとに、あと施工アンカー業者が行う）</p> <p>a) 外観検査 目視により施工面への傾斜及び突出長さ等を全数確認する。</p> <p style="margin-left: 20px;">金属系アンカー 施工面への垂線に対して5°以内</p> <p style="margin-left: 20px;">接着系アンカー 施工面への垂線に対して15°以内</p> <p>b) 打音検査 テストハンマーによる全数検査で音および感触により固着状況の確認を行う。</p> <p>c) 引張り試験 原則として試験数は各階毎に3本以上とし、補強部材1箇所あたり1本以上実施する。</p> <p>試験方法は、「公共建築改修工事標準仕様書・平成31年度版」の施工確認試験の方法による。</p> <p>d) 確認試験荷重 原則として非破壊試験とし、アンカーの鋼材による引張荷重又はコンクリート破壊による引張り荷重（埋込みピッチ及びへりあきの影響を受ける場合は、低減した荷重）の小さい方の2/3程度の荷重を確認荷重とする。</p> <p>接着系アンカーの引張確認耐力は「耐震改修指針」3-9.4による。</p>														
<p>第二章 総 則</p> <p>1. 適用範囲</p> <p>本工事は、設計図及び本仕様書によるものとしこれらに記載なき場合は、次に定める優先順位の仕様書によることとする。</p> <p>a) 本特記仕様書</p> <p>b) 「2017年版 既存鉄筋コンクリート建築物の耐震診断基準・同解説、耐震改修設計指針・同解説」（国土交通省住宅局建築指導課監修）</p> <p>c) 「公共建築改修工事標準仕様書・令和4年度版」（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）</p> <p>d) 「公共建築工事標準仕様書・令和4年度版」（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）</p> <p>e) 「壁式構造関係設計規準集・同解」（学会規準）</p> <p>2. 疑 義</p> <p>図面と仕様書の内容に相違があった場合や不明な箇所が生じた場合は、全て監督員との協議によるものとする。</p> <p>3. 材料などの試験</p> <p>a) 工事に使用する材料の試験を行うときは、監督員立会いのもとで採取し封印または検印を受ける。</p> <p>b) 各種材料の試験、性能等の確認、試験は公的機関において試験を受け監督員に提出する。</p>	<p>第三章 仮設工事</p> <p>1. 仮設工事の施工内容</p> <p>a) 工事期間中に建物の使用が考えられるため、工事箇所周囲に仮囲いを設け工事関係者以外の工事箇所への立入りを防ぎ安全を図る。</p> <p>b) 増設部材の周囲には、本足場を設けて施工性の向上と安全性の確保を図る。</p> <p>2. 仮設工事の注意事項</p> <p>仮設工事は次の点に留意して行うこと。</p> <p>a) 既存部材の仕上げ材及び器具類に損傷を与えないよう十分注意すること。なお、場合によっては必要に応じてシートなどで養生する。</p>	<p>第五章 鉄筋工事</p> <p>1. 使用材料</p> <p>a) 異形鉄筋 鉄筋は、JIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）に規定するSD295A 及び SD345 規格品とする。</p> <p style="margin-left: 20px;">SD295A D10～D16</p> <p style="margin-left: 20px;">SD345 D19～D25</p> <p>b) 丸鋼（スパイラル筋） SR235 φ6以上のスパイラル筋 継手は2巻以上の重ねとする。</p> <p>c) 溶接金網 JIS G 3551（溶接金網）の規格に適合するもので、素線の径を4mm以上とし、編目寸法は、75mm以上のものとする。</p> <p>2. 施工上の注意事項</p> <p>a) 鉄筋の継手は重ね継手または、溶接継手とする。但し、D19以上は原則としてガス圧接とする。</p> <p>b) 接着系アンカー筋への継手は原則として重ね継手とする。重ね継手の長さは、鉄筋の種類コンクリート強度に応じて配筋標準図によること。</p> <p>c) 既存の主筋に溶接して定着する場合はその鉄筋の溶接性を十分に検討し、溶接によって機械的性質を変化させないように十分に注意を払うものとする。また、JISZ3801（溶接技術検定における試験方法ならびに判定基準）のそれぞれの姿勢の資格を有し、または日本溶接協会等の合格認定を所有している熟練した溶接工とする。</p> <p>d) 溶接に際しては、母材にできるだけ損傷を与えないように注意するとともに、コンクリートに埋込まれた鉄筋を溶接する場合は、熱でコンクリートが損傷を受けにくい周囲のコンクリートを適切に研などの措置を講じること。</p> <p>e) 溶接の施工時には、溶接の火花が飛び散らないように適切に囲いを設けるなどの措置を講じること。</p>														
		 <p style="text-align: center;">接着系アンカー筋 (例)</p>														
		<p>e) 引張り試験確認強度</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>補強柱（柱頭）</td> <td>：</td> <td>接着系アンカー</td> <td>M16</td> <td>有効埋込み深さ</td> <td>7d</td> <td>Ta = 23 x 2/3 = 15.3kN/本</td> </tr> <tr> <td>補強ブレース（柱脚）</td> <td>：</td> <td>接着系アンカー</td> <td>M20</td> <td>有効埋込み深さ</td> <td>10d</td> <td>Ta = 79 x 2/3 = 52.6kN/本</td> </tr> </table>	補強柱（柱頭）	：	接着系アンカー	M16	有効埋込み深さ	7d	Ta = 23 x 2/3 = 15.3kN/本	補強ブレース（柱脚）	：	接着系アンカー	M20	有効埋込み深さ	10d	Ta = 79 x 2/3 = 52.6kN/本
補強柱（柱頭）	：	接着系アンカー	M16	有効埋込み深さ	7d	Ta = 23 x 2/3 = 15.3kN/本										
補強ブレース（柱脚）	：	接着系アンカー	M20	有効埋込み深さ	10d	Ta = 79 x 2/3 = 52.6kN/本										

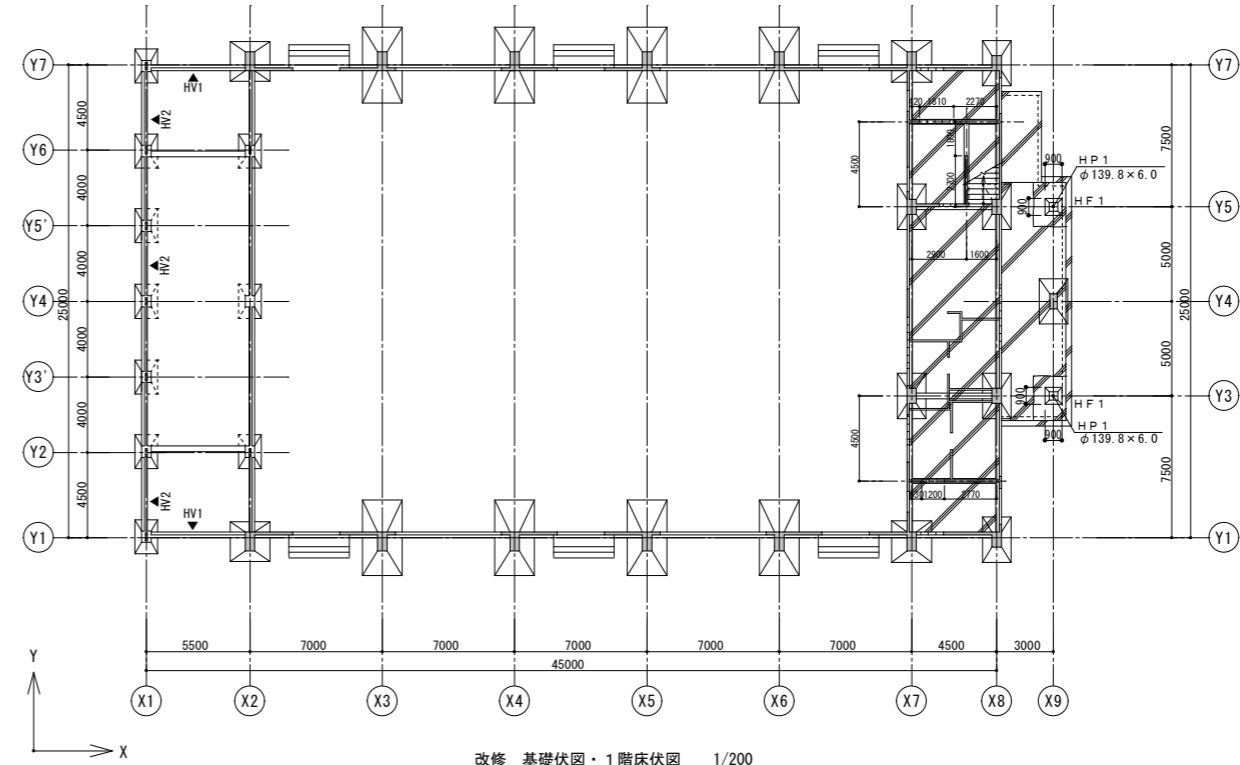
耐震補強特記仕様書

第七章 コンクリート工事	第八章 鉄骨工事	第九章 グラウト工事（メーカーの責任施工）				
<p>1. 使用材料 コンクリートはJIS A 5308 に規定するレディミクストコンクリート 規格品を使用し、下記による。</p> <p>a) 設計基準強度 耐震診断時採用強度 σ_{BD} 以上 かつ $F_c = 21 \text{ N/mm}^2$ 以上とする。 $F_c = 18 \text{ N/mm}^2$ 以上 (土間コンクリート)</p> <p>b) セメント JIS R 5210 (普通ポルトランドセメント)</p> <p>c) 単位水量の最大値 185 kg/m^3</p> <p>d) 単位セメント量の最小値 270 kg/m^3</p> <p>e) 水セメント比の最大値 65 % 以下</p> <p>f) 粗骨材 最大寸法 25 mm 以下</p> <p>g) スランブ 18 cm 以下</p> <p>h) 空気量 4.5 % 以内</p> <p>i) 塩化物含有量 0.3 kg/m^3 以下</p> <p>j) 混和剤 流動化混和剤及び膨張性混和材については用いてもよいものとし、材料・配合量については監督員と協議により決定する。</p> <p>k) コンクリートはアルカリ骨材反応を生じおそれのないものとする。</p> <p>2. 打込み前の準備</p> <p>a) 打込み前に既存コンクリート部材表面の斫り跡を圧縮空気、吸引機、掃除機あるいは水などで十分に清掃する。</p> <p>b) 打込み前にせき板、既存コンクリート表面に十分水浸しを行い、打込むコンクリート中の水分が吸収されないようにする。</p> <p>3. 打込みおよび締め</p> <p>a) 打込みは、梁下に横に連続したアサガオ型の型枠を設けて流し込む方法と上階スラブに打込み用貫通孔を設けて流し込む方法と下から圧入する方法などによる。</p> <p>b) 流し込む方法の場合は増設部材または打ち増し部分と既存の上部架構（梁下）とを一体化させるために、増設部材または打ち増し部分の上部を20cm程度残して流し込み、グラウト材を圧入することを原則とする。</p> <p>c) 締めめは、振動機を用いるほか、たたき締めを行い、コンクリートを密実に締め固める。</p> <p>4. 養生</p> <p>a) コンクリートの打込み後は、コンクリート中の水分が発散しないよう、必要に応じ、型枠面に散水したり、覆いをかけるなどの措置を講ずる。</p> <p>b) 型枠の取外し後、引続き湿潤養生を必要とする場合は、散水やコンクリート表面をシートで被覆するなどの措置を講ずること。</p> <p>c) 膨張性混和材を用いる場合は、コンクリートを7日間以上湿潤状態に保つこと。</p> <p>5. 型枠</p> <p>a) 型枠は、コンクリート側圧、打設方法、セパレーターの取付け方法などを考慮して設計する。</p> <p>b) 型枠の組立ては、打上がりコンクリート部材の位置および断面寸法の精度が十分保たれるよう、特に注意して行う。 又既存部材と型枠の取り合い部は、モルタルなどの漏出が生じないよう適切な措置を講ずる。</p> <p>c) 鋼板を巻いて柱を補強する工法においては、コンクリートの側圧による鋼板のはらみだしを防ぐような適切な措置を講ずる。</p> <p>d) 型枠は、できるだけ型枠振動機が使用しやすいうように組立てる。</p> <p>6. 試験・検査</p> <p>a) 試験・検査は、JASS 5「品質管理・検査」に準ずる。</p> <p>b) 試験項目は、JASS 5 に示されている項目のうち、圧縮強度、スランブ、空気量、塩化物量とする。</p> <p>c) 施工者の責任において、試験体を作成し圧縮強度試験の確認を行う。 試験体は、JIS A 1132 に準じ材令7日 3本、材令28日 3本を、各階毎に作成する。</p> <p>d) 試験は JIS A 1108 に準じ公的機関で行う。</p>	<p>1. 材料</p> <p>a) 鋼材 SS400</p> <p>b) 高力ボルト トルシア型高力ボルト（2種・S10T）規格品 または JIS形高力ボルト（2種・F10T）規格品</p> <p>c) 普通ボルト SS400</p> <p>d) アンカーボルト JIS G 3138（建築構造用圧延棒鋼）SNR400B</p> <p>e) 頭付きスタッド JIS B 1198（頭付スタッド）規格品</p> <p>f) 素地調整 2種</p> <p>g) 防錆塗装 JIS K5674（鉛・クロムフリーさび止めペイント）2回塗り</p> <p>2. 確認</p> <p>a) 鉄骨の加工に先立ち、既存躯体の寸法等の確認を行い、工作図及び原寸図を作成し、監督員の承認を得ること。</p> <p>b) 鉄骨の製作工場は、建築基準法第68条の26に基づき認定を受けた（ ）グレード以上の工場とする。</p> <p>3. 検査</p> <p>a) 検査項目は下記とし必要に応じて監督員が立会う。検査終了後検査報告書を監督員に提出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 寸法精度検査 ● 外観検査 ● 溶接部の検査 ● 高力ボルト締付け検査 ● 塗装仕上り検査（現場） ○ 建方検査 <p>b) 突き合せ溶接部の内部欠陥検査は超音波探傷検査とし、全数検査とする。検査は第三者検査とする。</p> <p>c) 検査方法及び合否判定は日本建築学会「建築鉄骨工事標準仕様書 JASS 6」ならびに「鉄骨精度測定指針」による。</p>	<p>1. 材料 グラウト材は早強型特殊セメント系無収縮モルタルとし、調合はプレミックスとする。</p> <p>a) 設計基準強度 30 N/mm^2 以上</p> <p>b) グラウト材は、実績等の資料を監督員に提出すること。</p> <p>c) グラウト材のコンシステンシーは、J14 ロート（日本道路公団 KODAN 304-1976 無収縮モルタル品質管理試験方法）試験を行い、下表を満たすものとする。</p> <table border="1" data-bbox="2249 310 2656 403"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>品質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンシステンシーの範囲 J14 ロート(秒)</td> <td>8±2</td> </tr> </tbody> </table> <p>d) 圧入・注入に先立ち試し練りを行う。</p> <p>2. 工事計画 グラウト工事は、メーカーの責任施工とし、事前に施工要領書を監督員に提出し承認を得ること。</p> <p>3. 圧入前の準備</p> <p>a) グラウト材圧入に先立ち、打設コンクリートの打継ぎ面はレイタンスなどを除去し、目荒らし清掃を行う。</p> <p>b) 型枠の内面及び既存コンクリート表面に適度の散水を行い、圧入される無収縮モルタルの水分が吸収されないようにする。 なお、既存コンクリートの表面に散水が行えない箇所はプライマーを塗布する。</p> <p>4. 型枠</p> <p>a) グラウト材圧入中の型枠はモルタルグラウト用とし、周囲に急結性又は速乾性コーキング剤を施し、モルタル漏れのないようにする。</p> <p>5. 圧入</p> <p>a) 施工前に水温の管理を十分行い、水温10℃以上の水を用いてグラウトモルタルを練上げ、練り上がり時の温度が10～35℃の範囲のものを圧入する。なお、モルタルの攪拌にはアルミ羽の攪拌機を用いない。</p> <p>b) 圧入は適度な圧力で中断しないように行う。</p> <p>c) 空気孔を設け、グラウト材が空気抜きに出てくることにより、充填を確認する。</p> <p>d) 7mを超えるスパンの部材に圧入する場合には、横方向2箇所の圧入口を設ける。</p> <p>6. 養生</p> <p>a) グラウト材の圧入後は、モルタル中の水分が発散しないように、必要に応じ型枠面に散水したり、覆いをかけるなどの措置を講じる。</p> <p>b) 養生期間は3日間を標準とし、期間中はグラウト材の温度を、5℃以上に保つ。その他はコンクリート工事と同様とする。</p> <p>7. 試験・検査</p> <p>a) 施工者の責任において供試体を作成し、圧縮強度の確認を行う。圧縮強度の確認は公的機関においてJIS A 1108（圧縮強度の試験方法）により行う。</p> <p>b) 供試体は、JIS A 1132 に準じて、直径 50mm、高さ 100mmの円柱とする。</p> <p>c) 供試体の材令は、3日（72時間以上）、7日、28日とし、養生は封かん養生とする。</p> <p>d) 供試体の採取は、午前・午後の打設前および最終打設時の3回を標準とする。数量は、材令に応じてそれぞれ1体とする。ただし、1日の打設料が3m³をこえる場合、増加量2m³あたり1回を追加する。</p>	項目	品質	コンシステンシーの範囲 J14 ロート(秒)	8±2
項目	品質					
コンシステンシーの範囲 J14 ロート(秒)	8±2					



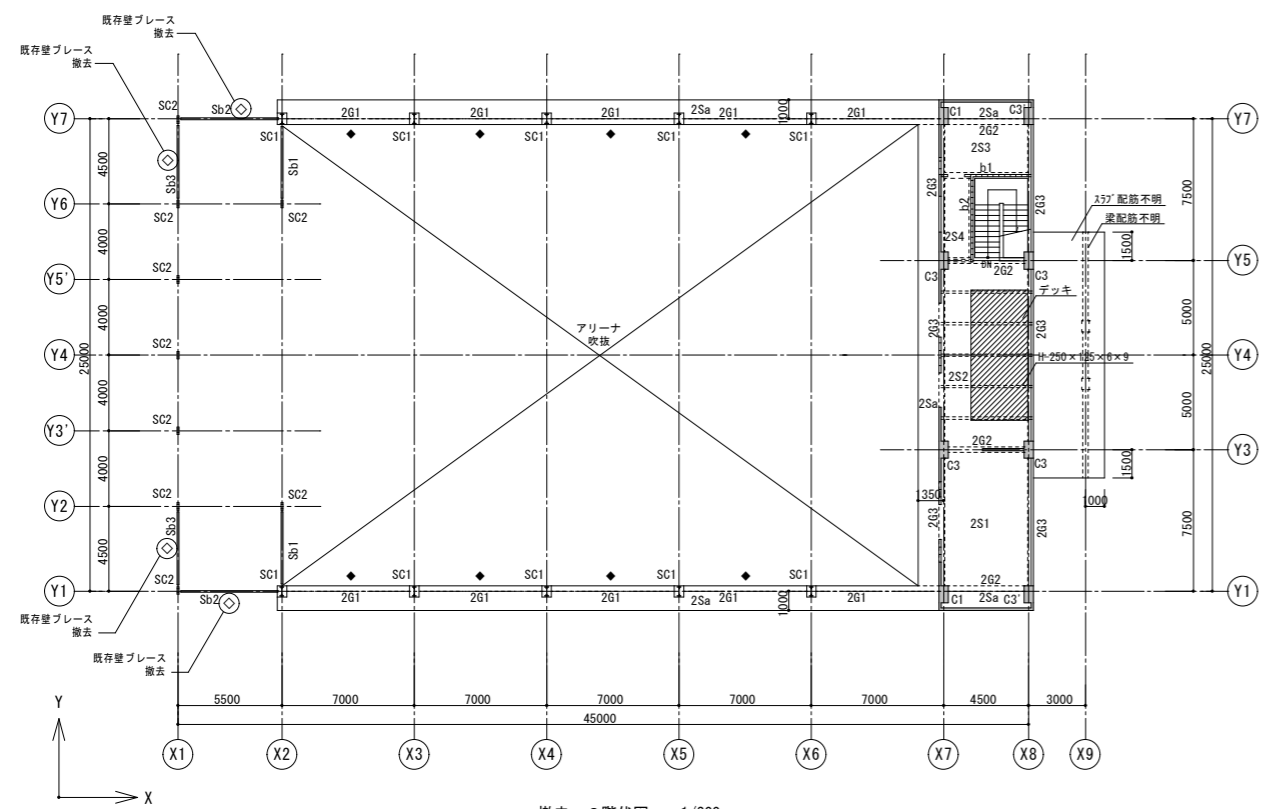
撤去 基礎伏図・1階床伏図 1/200

- 特記を除き 基礎下端レベル: GL-1050
 F6 下端レベル: GL-1700
 壁: W120
 窓: CR: W120
 ◇印 既存壁ブレース (19φ) 位置を示す。



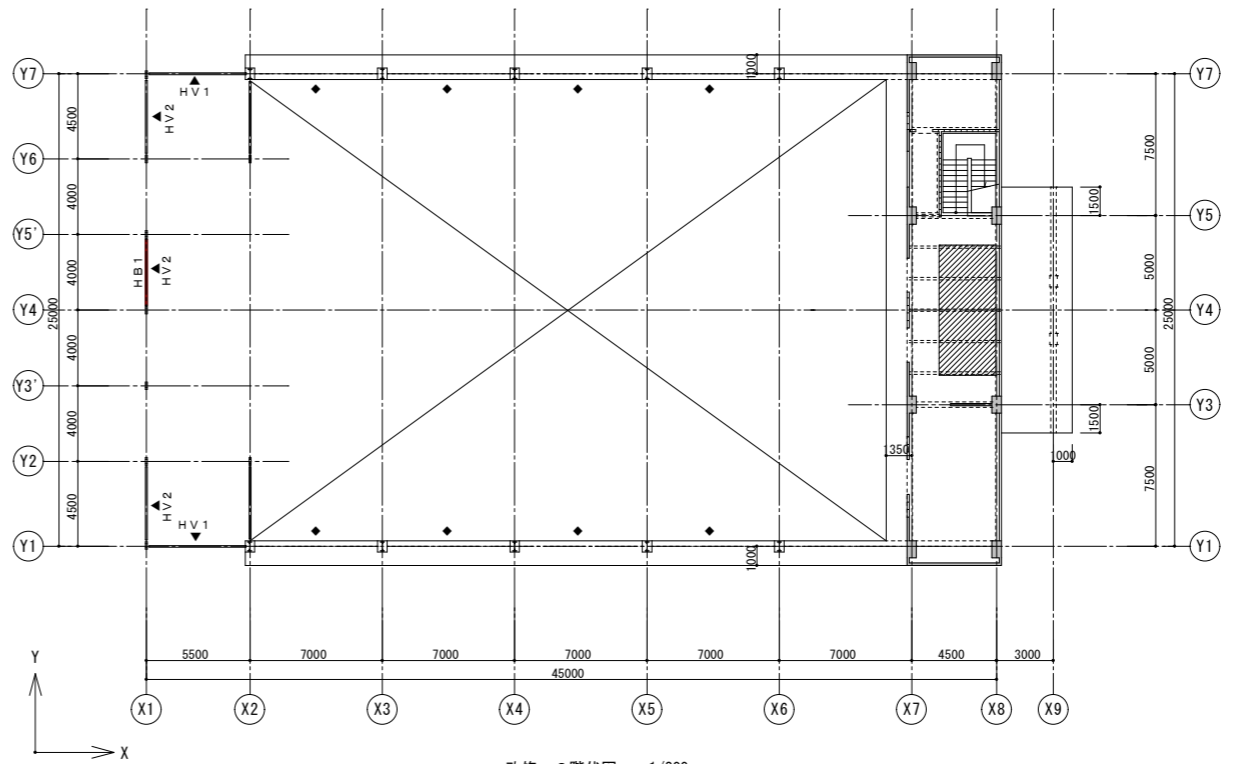
改修 基礎伏図・1階床伏図 1/200

- 特記を除き HF 1: 新設基礎 900×900
 HP 1: 新設補強間柱 φ139.8×6.0
 HV 1: 増設補強壁ブレース 1-M16 (T.B付)
 HV 2: 増設補強壁ブレース 1-M20 (T.B付)



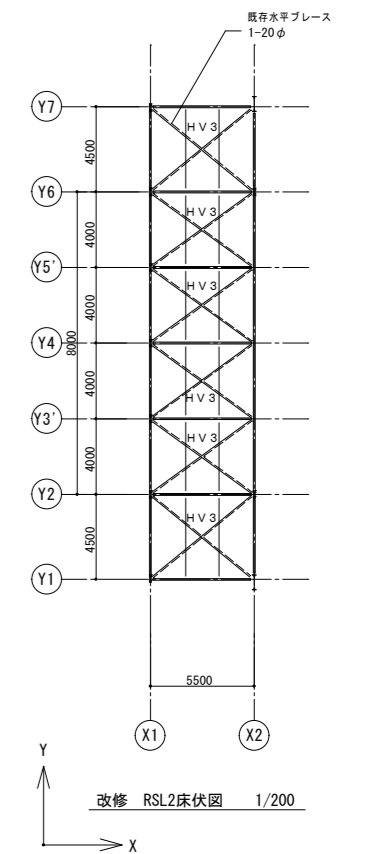
撤去 2階伏図 1/200

- 特記を除き 壁: W120
 窓: CR: W120
 ◇印 既存壁ブレース (19φ) 位置を示す。
 ◆印 既存壁ブレース (L-50×50×6) 位置を示す。



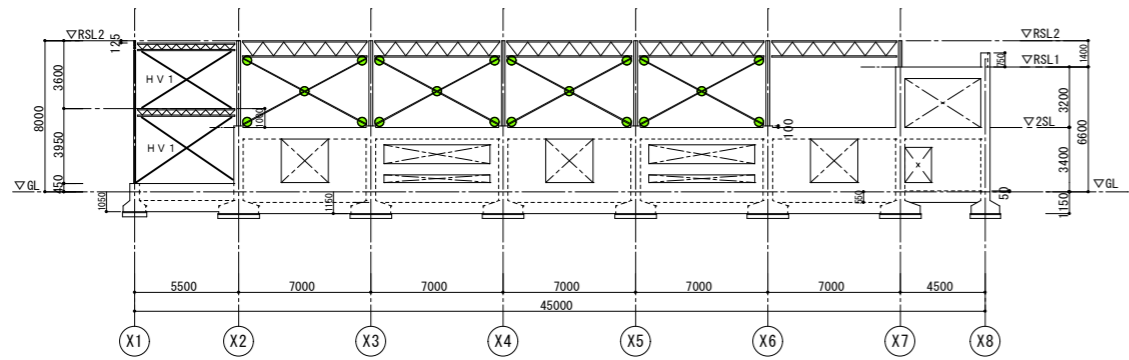
改修 2階伏図 1/200

- 特記を除き HB 1: 補強小梁 [-150×75×6.5×10]
 HV 1: 増設補強壁ブレース 1-M16 (T.B付)
 HV 2: 増設補強壁ブレース 1-M20 (T.B付)

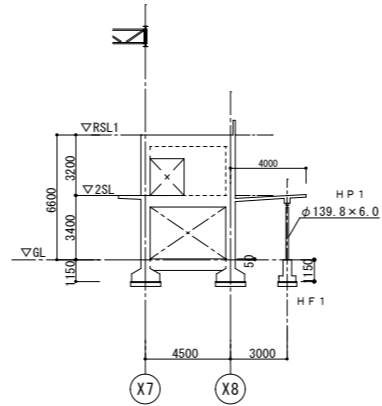


改修 RSL2床伏図 1/200

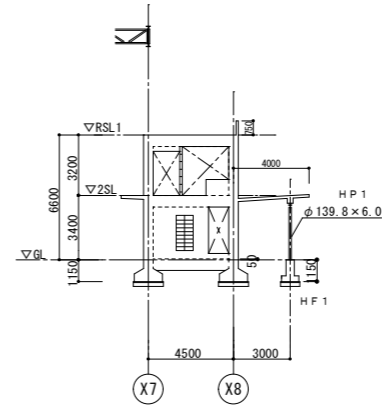
- 特記を除き HV 3: 補強水平ブレース 1-M20 (T.B付)



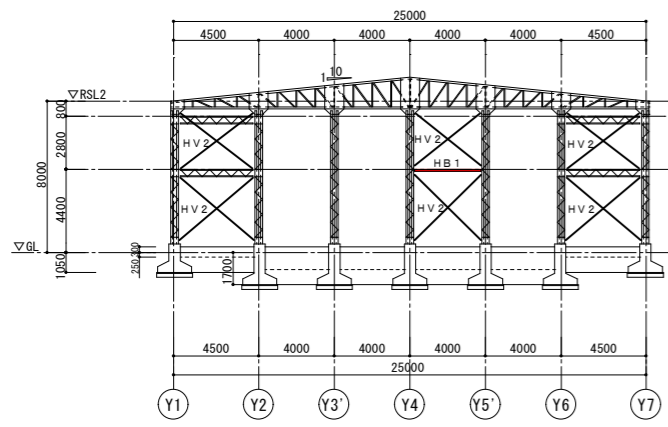
Y1, Y7通り軸組図 1/200



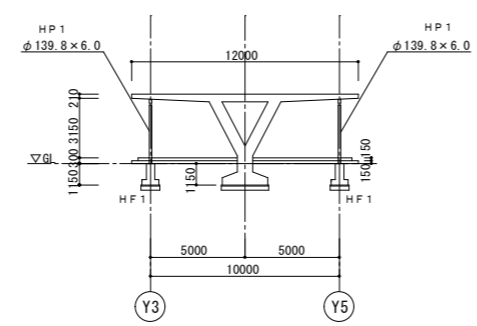
X7, X8通り軸組図 1/200



X7, X8通り軸組図 1/200




X1通り軸組図 1/200

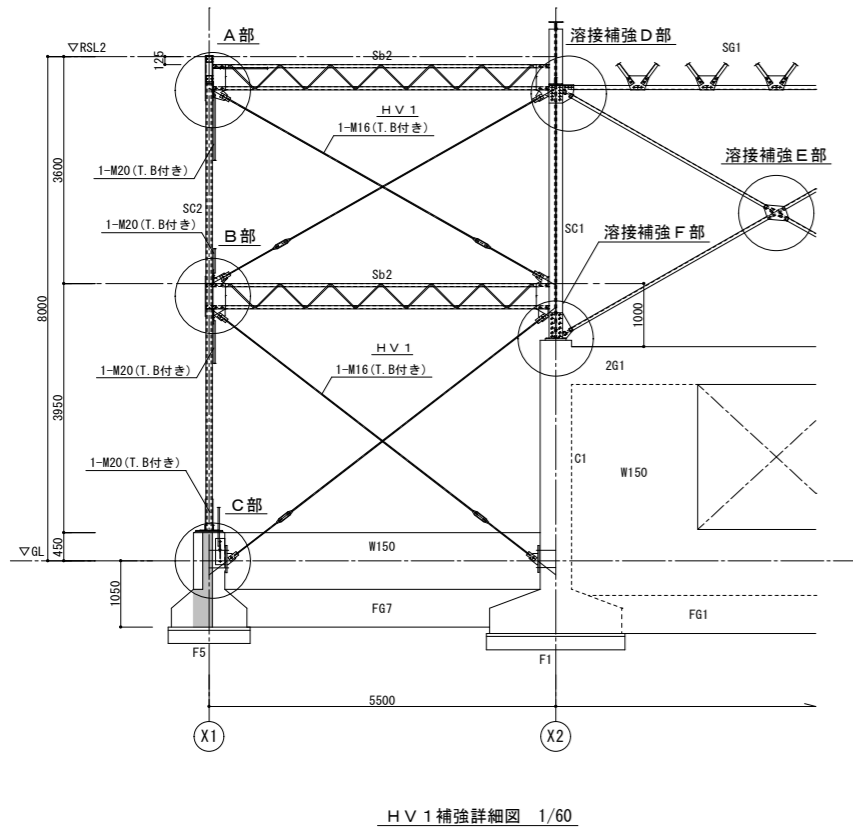


Y3, Y5通り軸組図 1/200

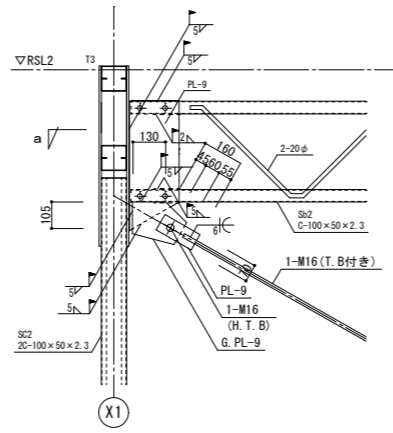
- 特記を除き
- HF1: 新設基礎 900×900
 - HP1: 新設補強間柱 φ139.8×6.0
 - HB1: 補強小梁 [-150×75×6.5×10
 - HV1: 増設補強壁ブレース 1-M16 (T.B付)
 - HV2: 増設補強壁ブレース 1-M20 (T.B付)
 - : 溶接補強箇所 既存壁ブレース L-50×50×6

HV1: 増設補強壁ブレース 1-M16 (T.B付)
 HV2: 増設補強壁ブレース 1-M20 (T.B付)

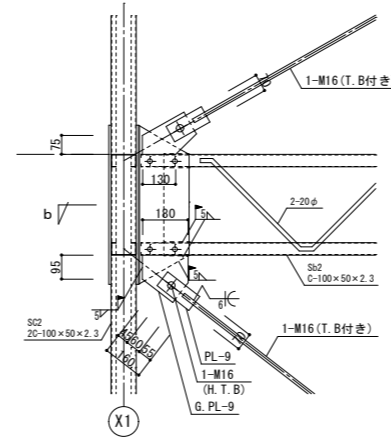
特記事項	 一級建築士事務所 株式会社 恵プランニング	〒399-0427 長野県上伊那郡辰野町中央192 赤羽ハイツ1F 電話 0266-43-2664	一級建築士事務所 長野県知事登録 (伊那)A第69291号	年 月 日 '23 00 00	件名 令和5年度 辰野西小学校体育館長寿命化改修工事	図番 S-04
			一級建築士大臣登録 第135010号 樋口 建司 印	図名 補強改修軸組図	縮尺 1/200	



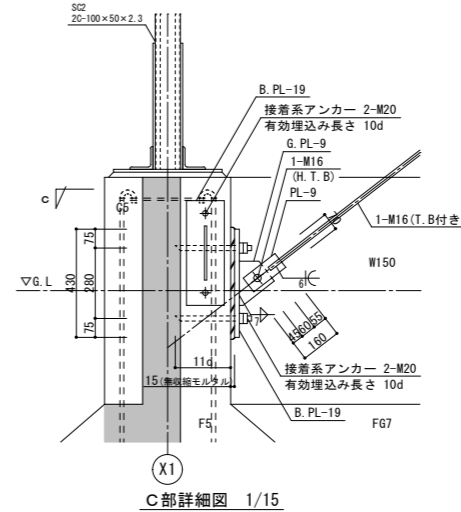
HV 1補強詳細図 1/60



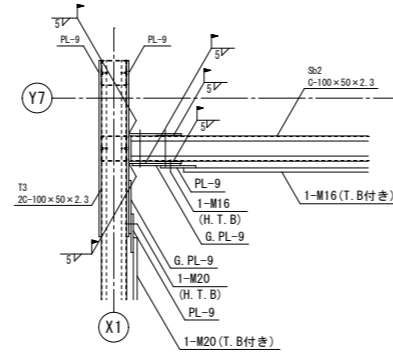
A部詳細図 1/15



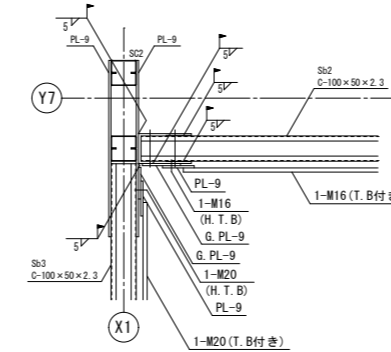
B部詳細図 1/15



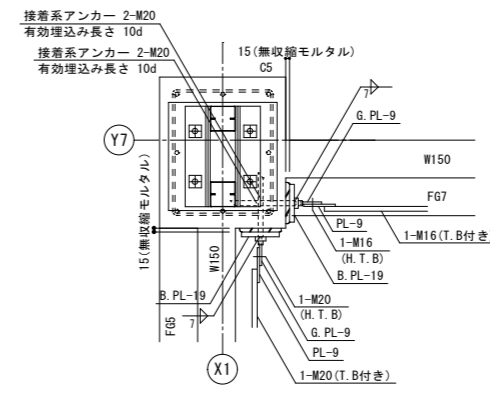
C部詳細図 1/15



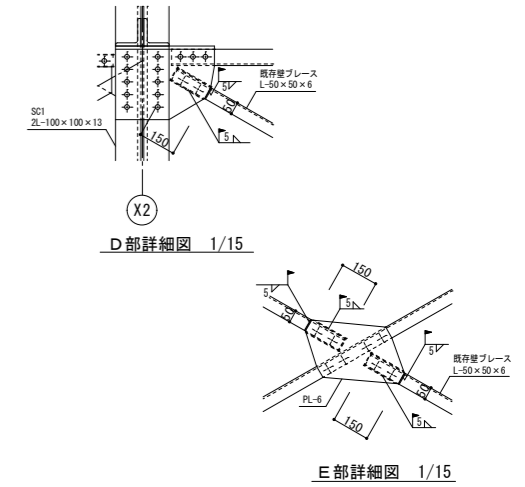
Sec a 1/15



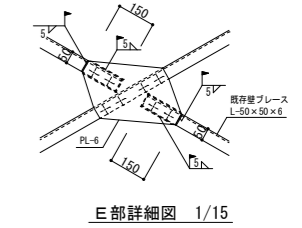
Sec b 1/15



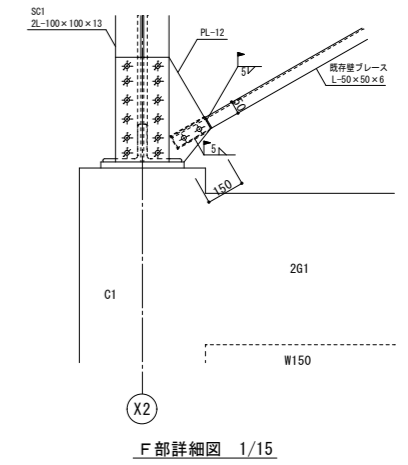
Sec c 1/15



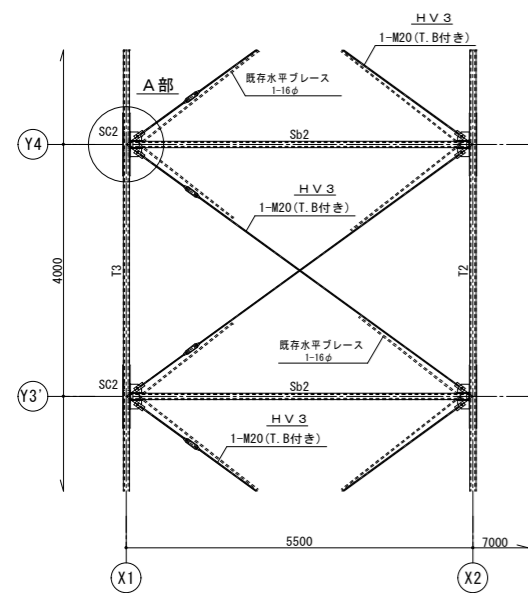
D部詳細図 1/15



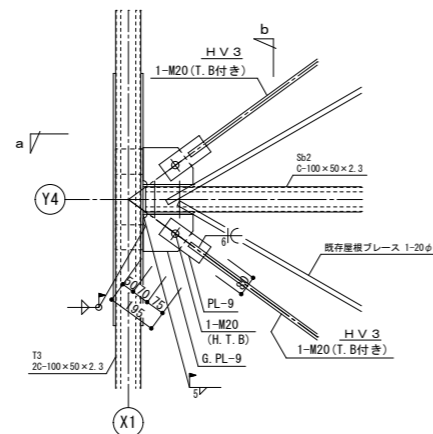
E部詳細図 1/15



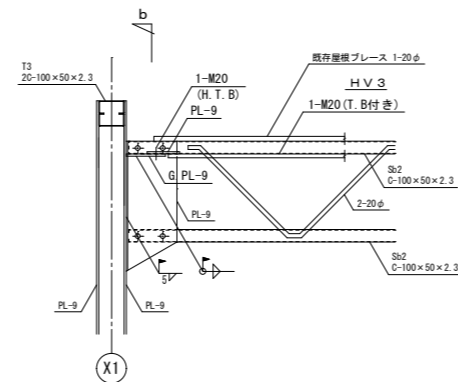
F部詳細図 1/15



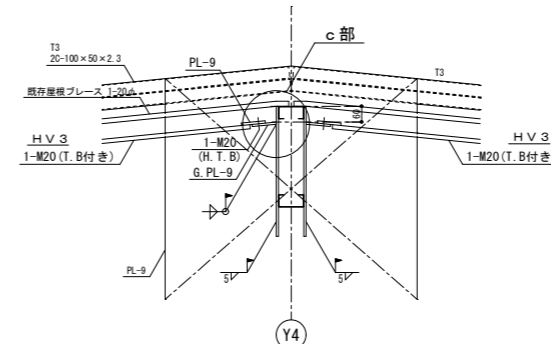
HV 3補強詳細図 1/60



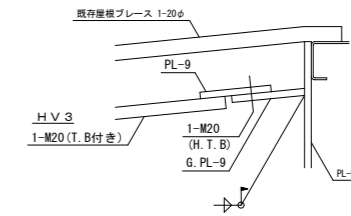
A部詳細図 1/15



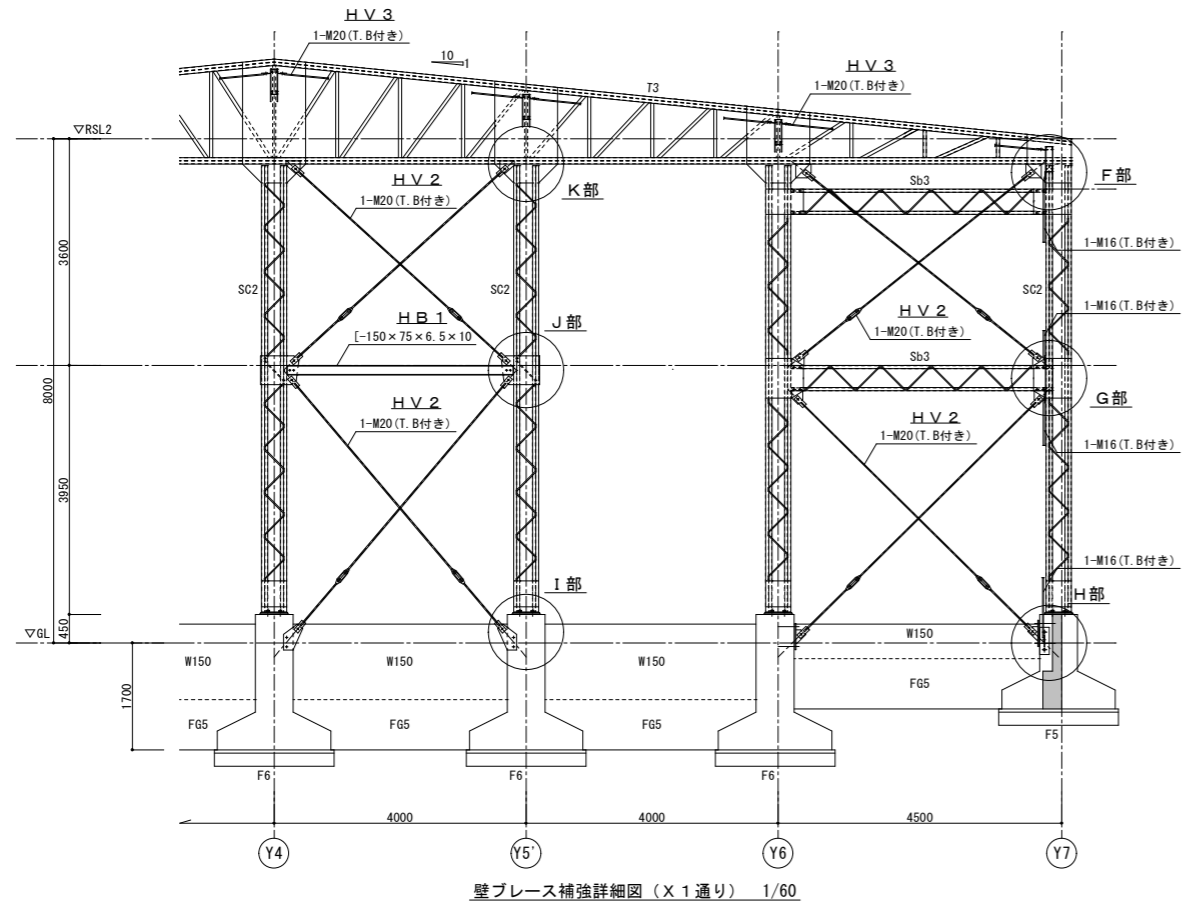
Sec a 1/15



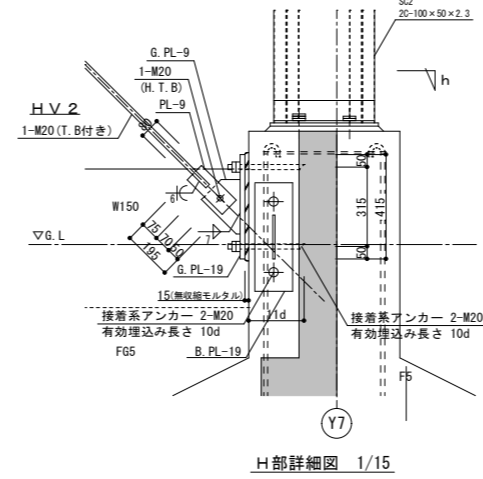
Sec b 1/15



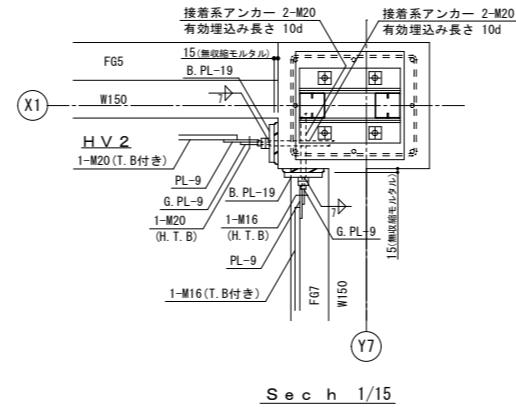
c部詳細図 1/5



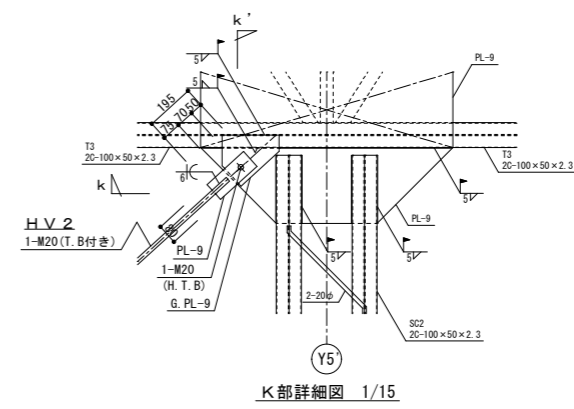
壁ブレース補強詳細図 (X1通り) 1/60



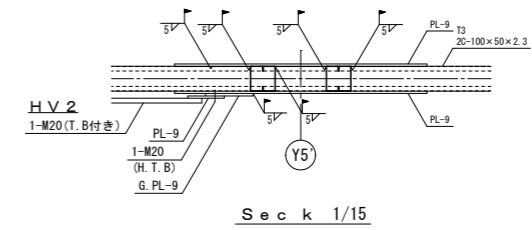
H部詳細図 1/15



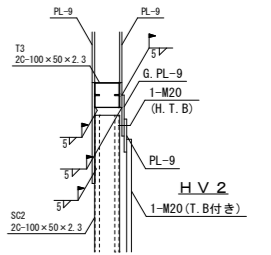
Sec h 1/15



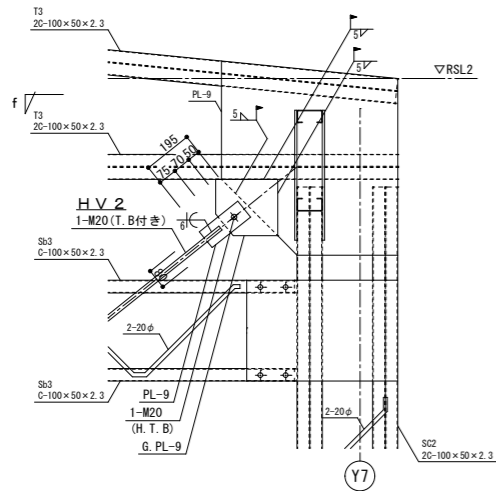
K部詳細図 1/15



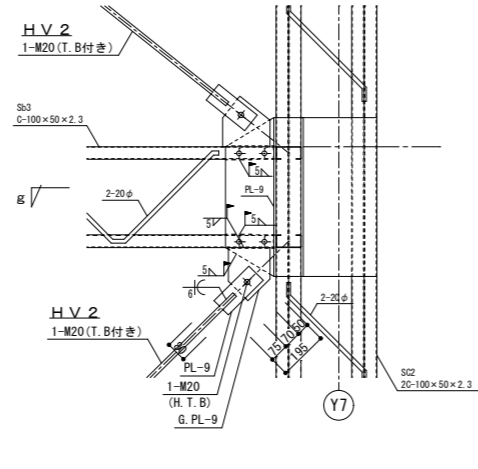
Sec k 1/15



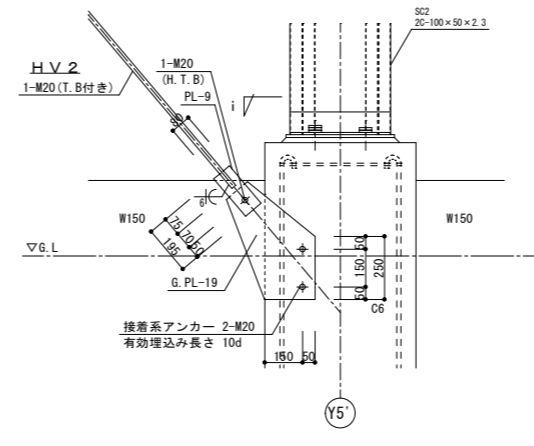
Sec k' 1/15



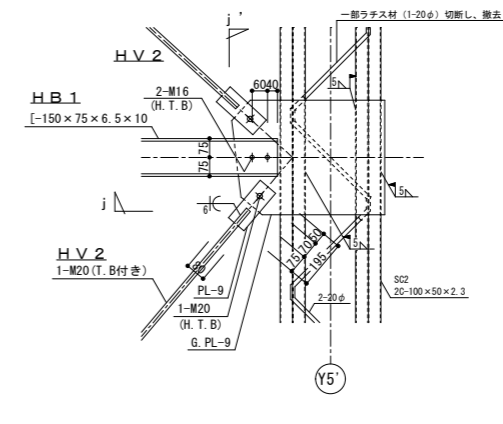
F部詳細図 1/15



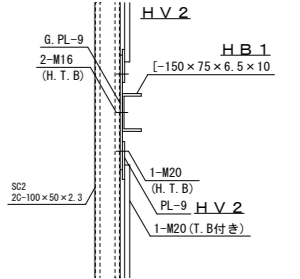
G部詳細図 1/15



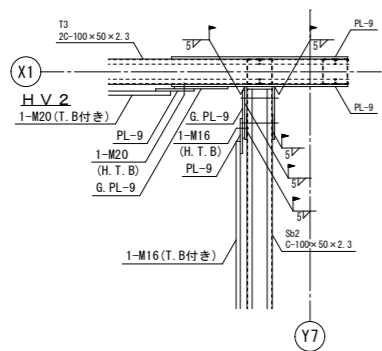
I部詳細図 1/15



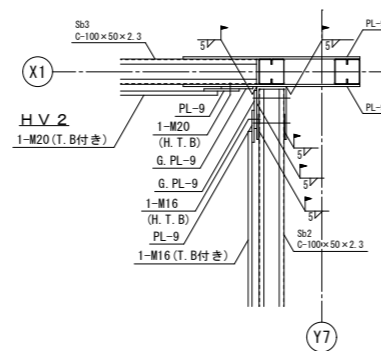
J部詳細図 1/15



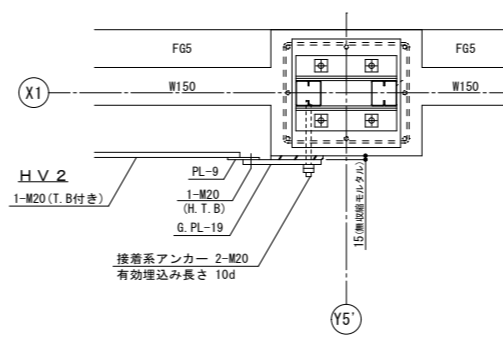
Sec j' 1/15



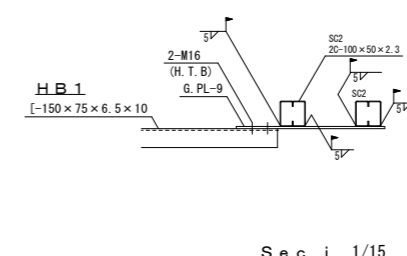
Sec f 1/15



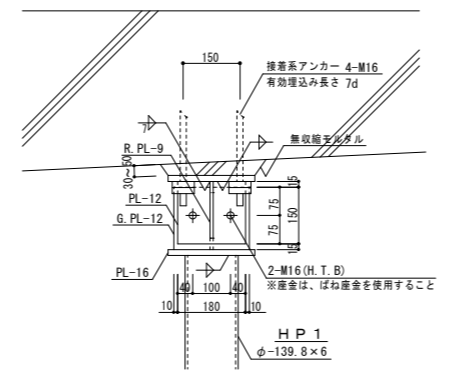
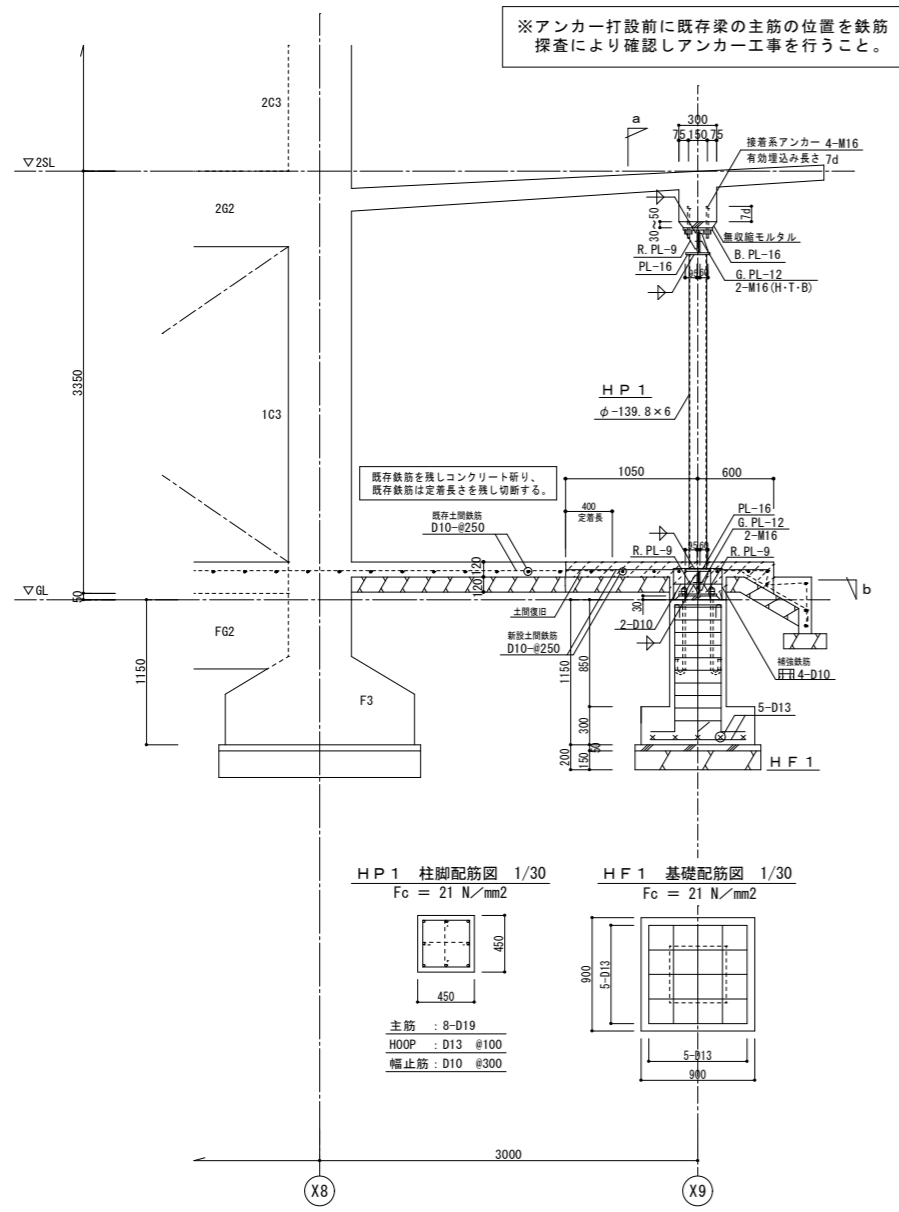
Sec g 1/15



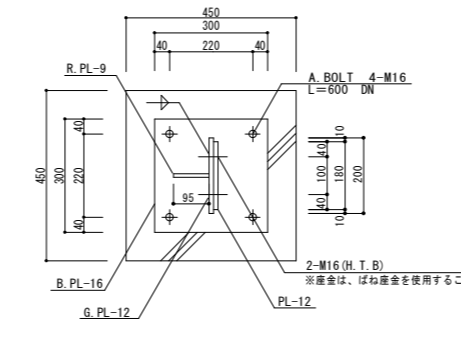
Sec i 1/15



Sec j 1/15

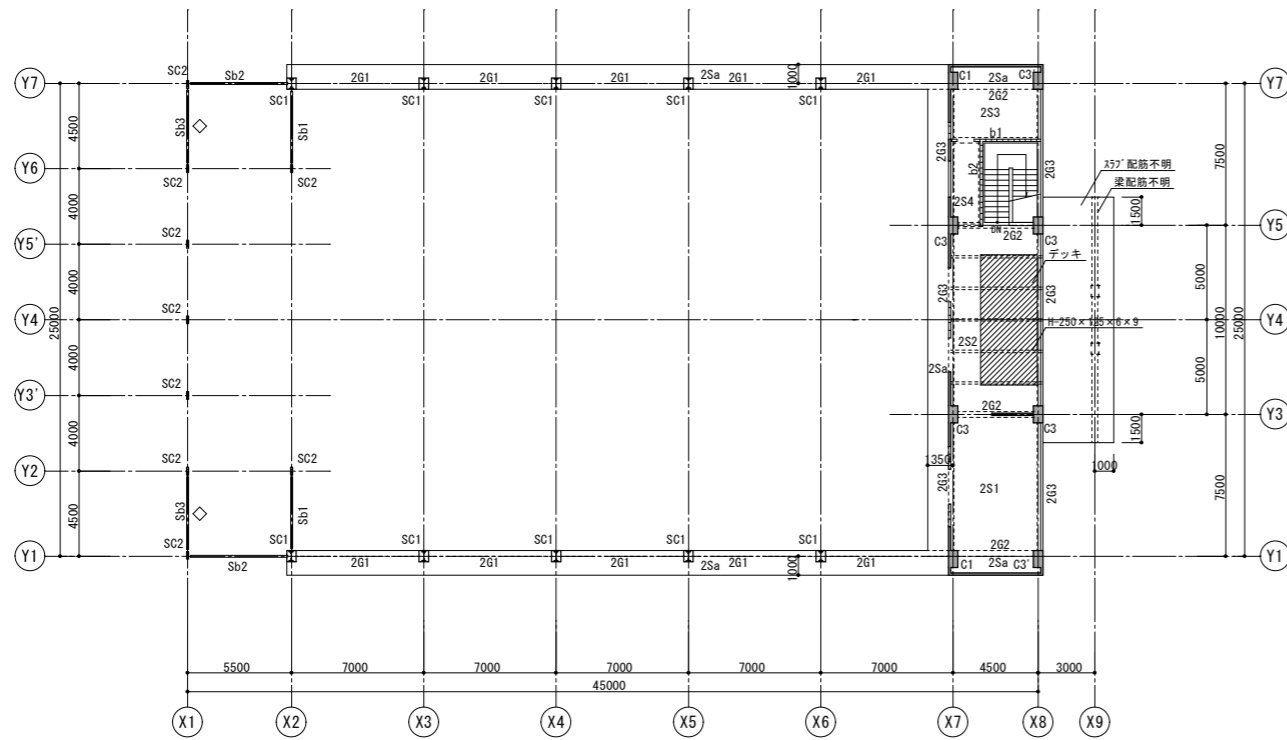


Sec a 1/10



Sec b 1/10

HP1・HF1補強詳細図 1/30

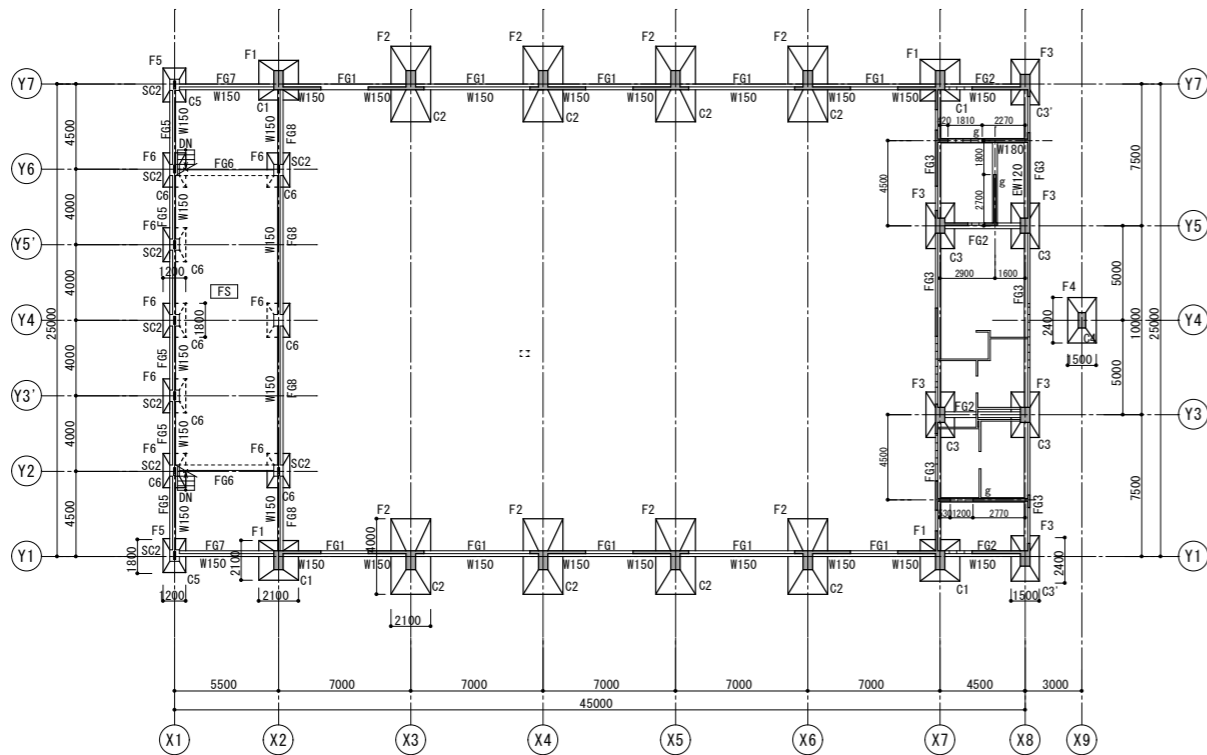


2階伏図 1/200

◇壁ブレース (19φ) を示す。

特記を除き 壁:W120

CB:W120



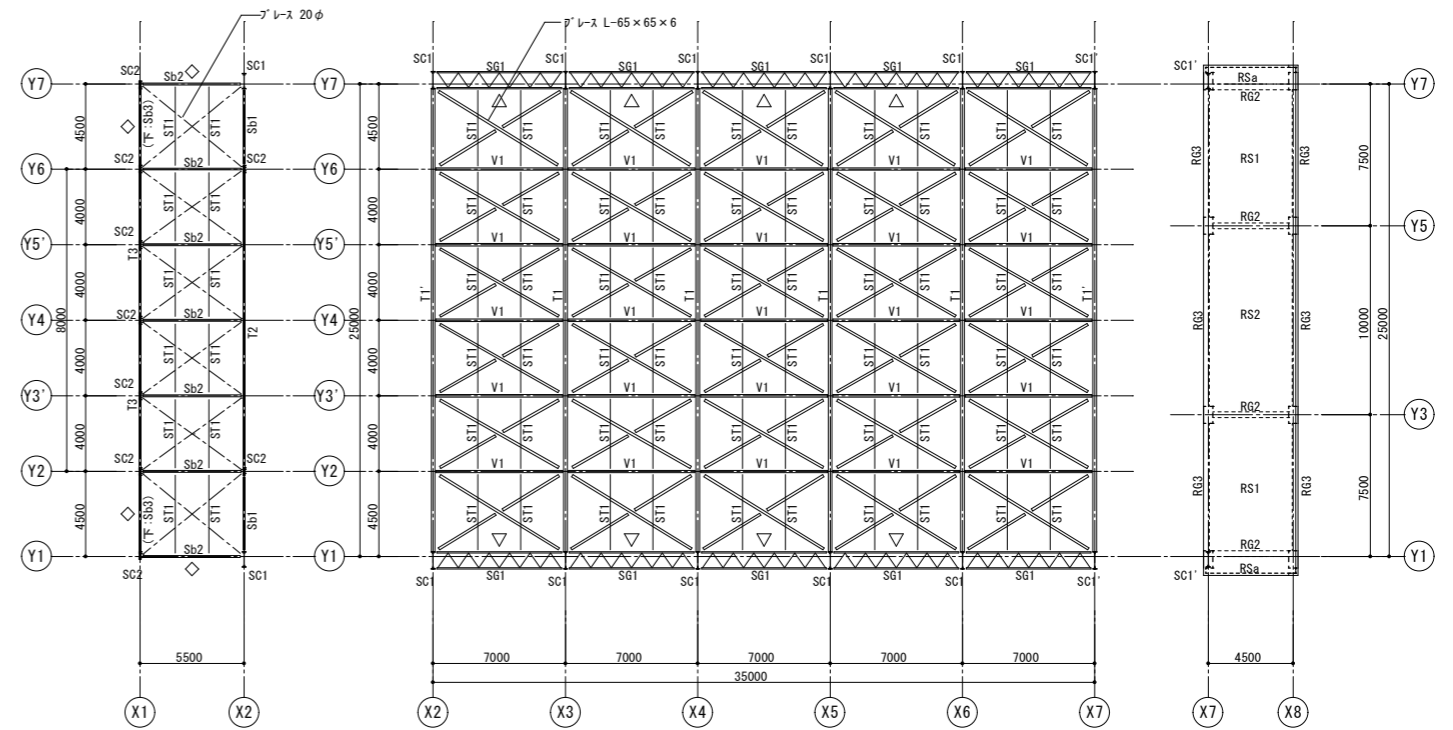
基礎伏図 1/200

特記を除き 基礎下端レベル: GL-1050

F 6 下端レベル: GL-1700

壁:W120

CB:W120



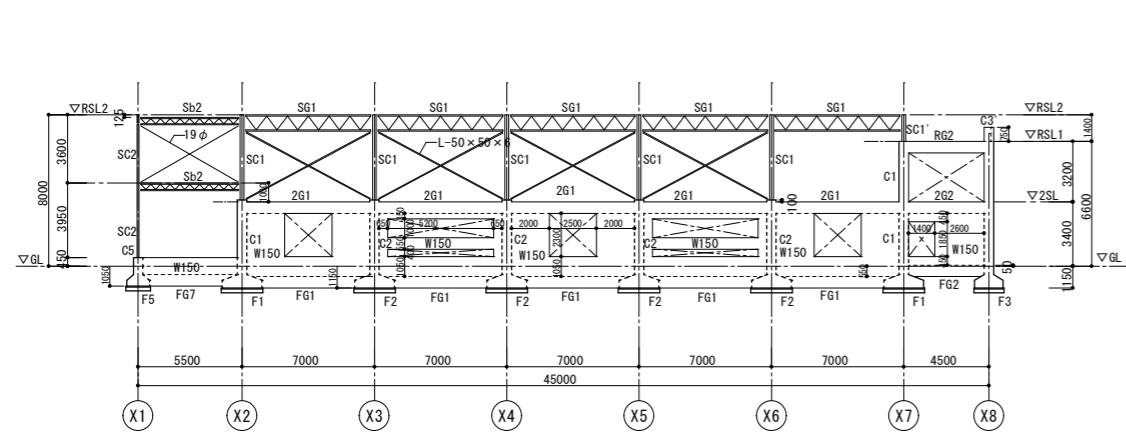
RSL2床伏図 1/200

RSL3床伏図 1/200

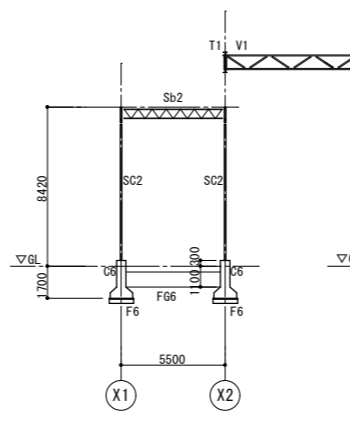
RSL1床伏図 1/200

▽壁ブレース (L-50×50×6) を示す。

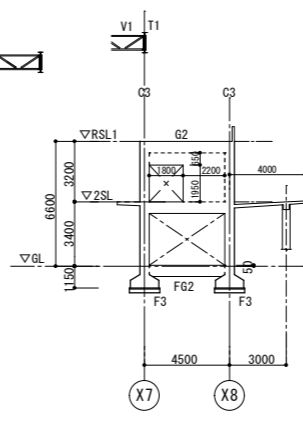
◇壁ブレース (19φ) を示す。



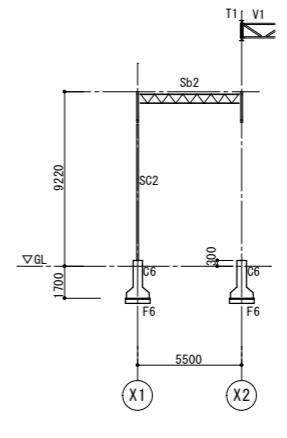
Y1, Y7通り軸組図 1/200



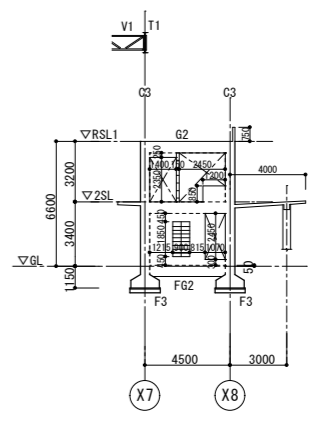
Y2, Y6通り軸組図 1/200



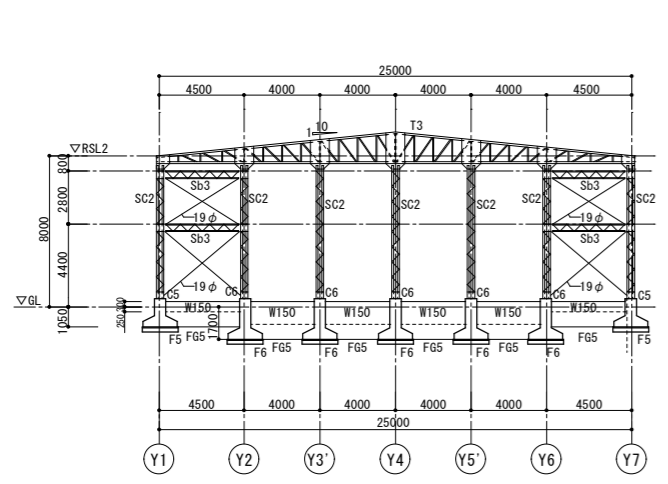
Y3通り軸組図 1/200



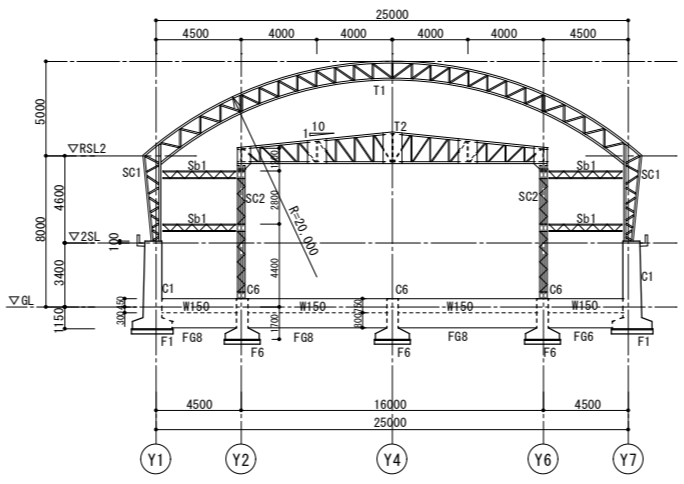
Y4通り軸組図 1/200



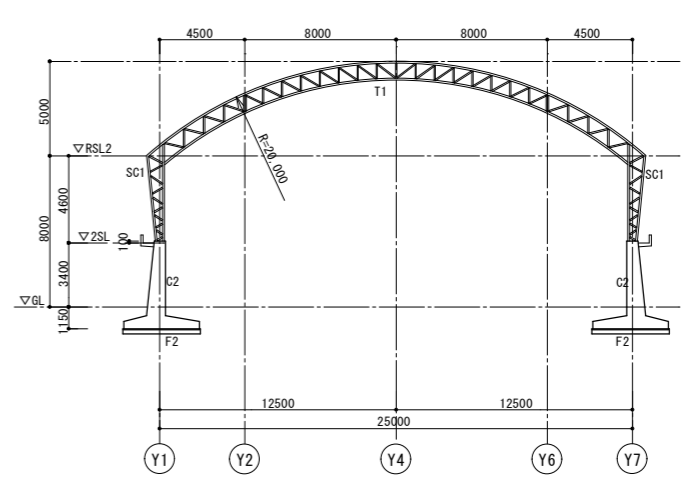
Y5通り軸組図 1/200



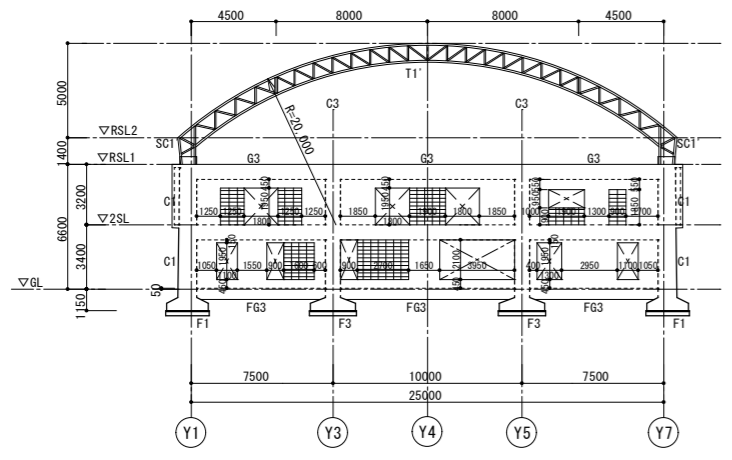
X1通り軸組図 1/200



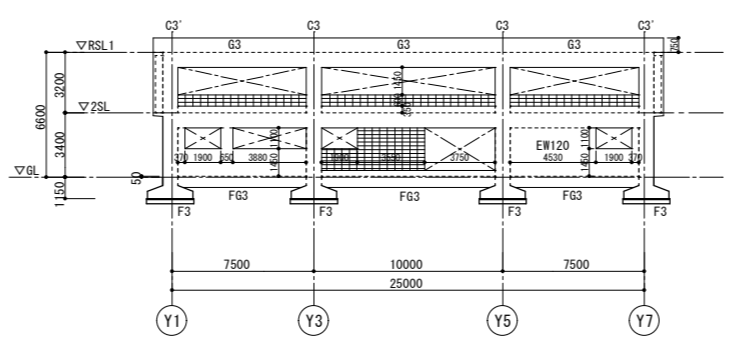
X2通り軸組図 1/200



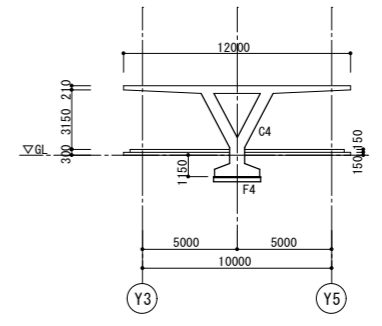
X3~X6通り軸組図 1/200



X7通り軸組図 1/200



X8通り軸組図 1/200

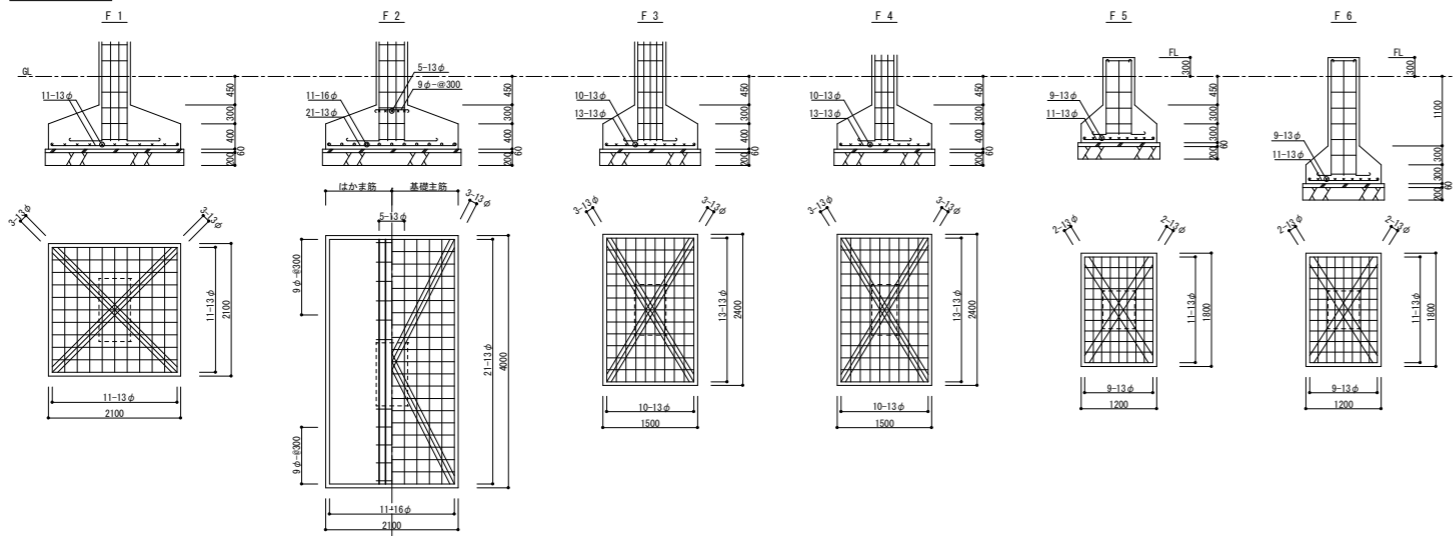


X9通り軸組図 1/200

特記を除き 壁:W120
 : CB120

特記事項	一級建築士事務所 株式会社 恵プランニング 〒399-0427 長野県上伊那郡辰野町中央192 赤羽ハイフ1F 電話 0266-43-2664	一級建築士事務所 長野県知事登録 (伊那) A第69291号 一級建築士大臣登録 第135010号 樋口 建司 印	年 月 日	件名	図番
			23 00 00	令和5年度 辰野西小学校体育館長寿命化改修工事	S-09
				図名	縮尺
				既存軸組図	1/200

基礎リスト 1/60



RC部材柱リスト 1/60

階	符号	C 1	C 2	C 3 (C 3')	C 4	C 5	C 6
2	断面						
	B×D	500×900(柱脚)		500×800			
	主筋	14-19φ		12-19φ C-15φ			
1	断面						
	B×D	500×1000(柱脚)	500×800	500×1000	500×800	400×600	400×800
	主筋	14-19φ	14-19φ	14-19φ	10-19φ	16-19φ	8-18φ

RC部材地中梁リスト 1/60

符号	F61 - F63 F64 - F67		F66 - F68	
	端部	中央	端部	中央
断面				
B×D	300×600	300×600	300×800	300×800
上筋	4-19φ	3-19φ	3-19φ	2-19φ
下筋	4-19φ	3-19φ	3-19φ	3-19φ
スラブ	□-9φ-φ150	□-9φ-φ150	□-9φ-φ150	□-9φ-φ150
覆筋	2-9φ	2-9φ	2-9φ	2-9φ

壁リスト

符号	壁厚 (mm)	壁筋		開口部補筋	
		縦筋	横筋	縦・横筋	縦・横筋
W120	120	9φ#250	9φ#250	9φ#250	1-13φ
W150	150	9φ#250	9φ#250	9φ#250	1-13φ
CB120	120	9φ#400	9φ#400	9φ#400	---

RC部材梁リスト 1/60

階	符号	G 2		G 3	
		端部	中央	端部	中央
R	断面				
	B×D	300×800	300×800	300×800	300×800
	上筋	4-19φ	2-19φ	5-19φ	2-19φ
2	断面				
	B×D	300×800	300×800	300×800	250×800
	上筋	4-16φ	2-16φ	5-19φ	2-16φ

鉄骨部材柱リスト 1/60

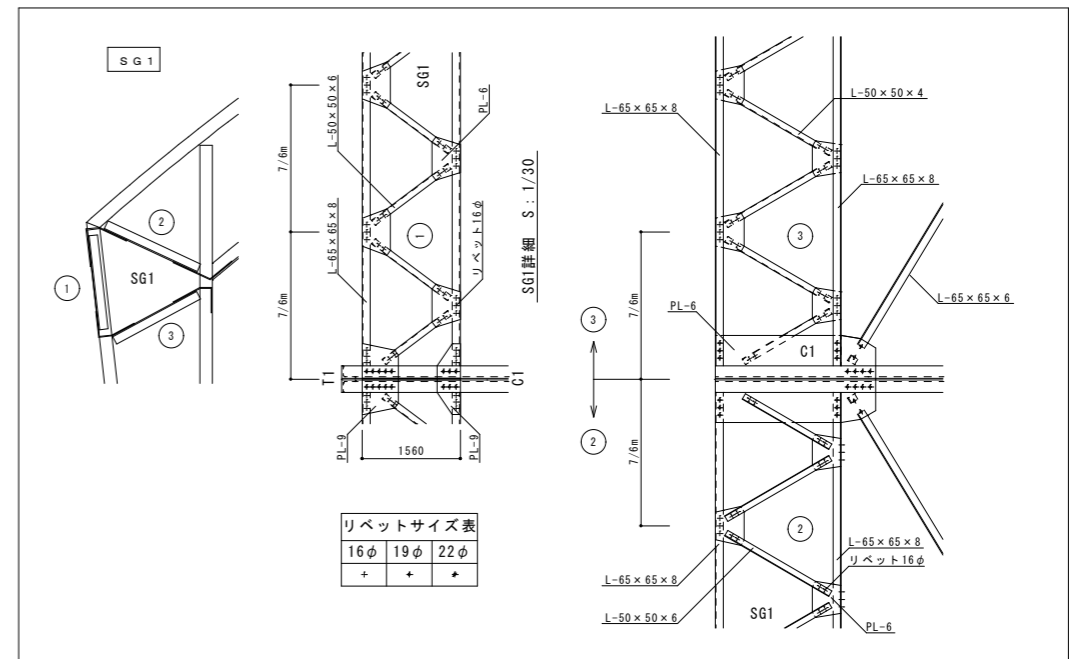
符号	SC1, SC1'	SC2
形状		
主材	ZL-100×100×13 ZL-100×100×13	2C-100×50×20×2.3 2C-100×50×20×2.3
ラチス	ZL-75×75×9	2-16φ

鉄骨部材梁リスト 1/60

符号	T1, T1'	T2	T3	Sb1, Sb2, Sb3	V1	ST1
形状						
主材	ZL-100×100×13 ZL-100×100×13	2C-100×50×20×2.3 2C-100×50×20×2.3	2C-100×50×20×2.3 2C-100×50×20×2.3	C-100×50×20×2.3	ZL-65×65×6 ZL-65×65×6	C-100×50×20×2.3 C-100×50×20×2.3
ラチス	ZL-75×75×9	ZL-65×65×6	C-100×50×20×2.3	2-16φ	L-65×65×6	2-16φ

その他部材リスト

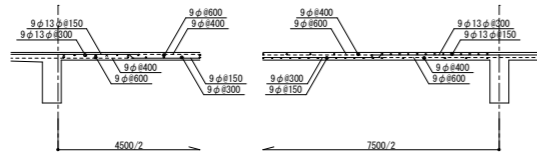
符号	部材
	層梁アレス L-65×65×6
	層梁アレス 16φ (T 6φ L)
	壁アレス 19φ, 25φ (T 6φ L)



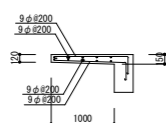
壁筋は縦・横φ#250 開口部には13φ 縦横φ#150として入れること。
配筋補立加工については日本建築法令に依ること。

スラブリスト 1/60

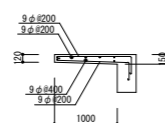
RS 1, RS 2, 2S 1, 2S 3, 2S 4



2S 2, 2S a



RS a



辰野西小体育館 RC断面リスト 1/60